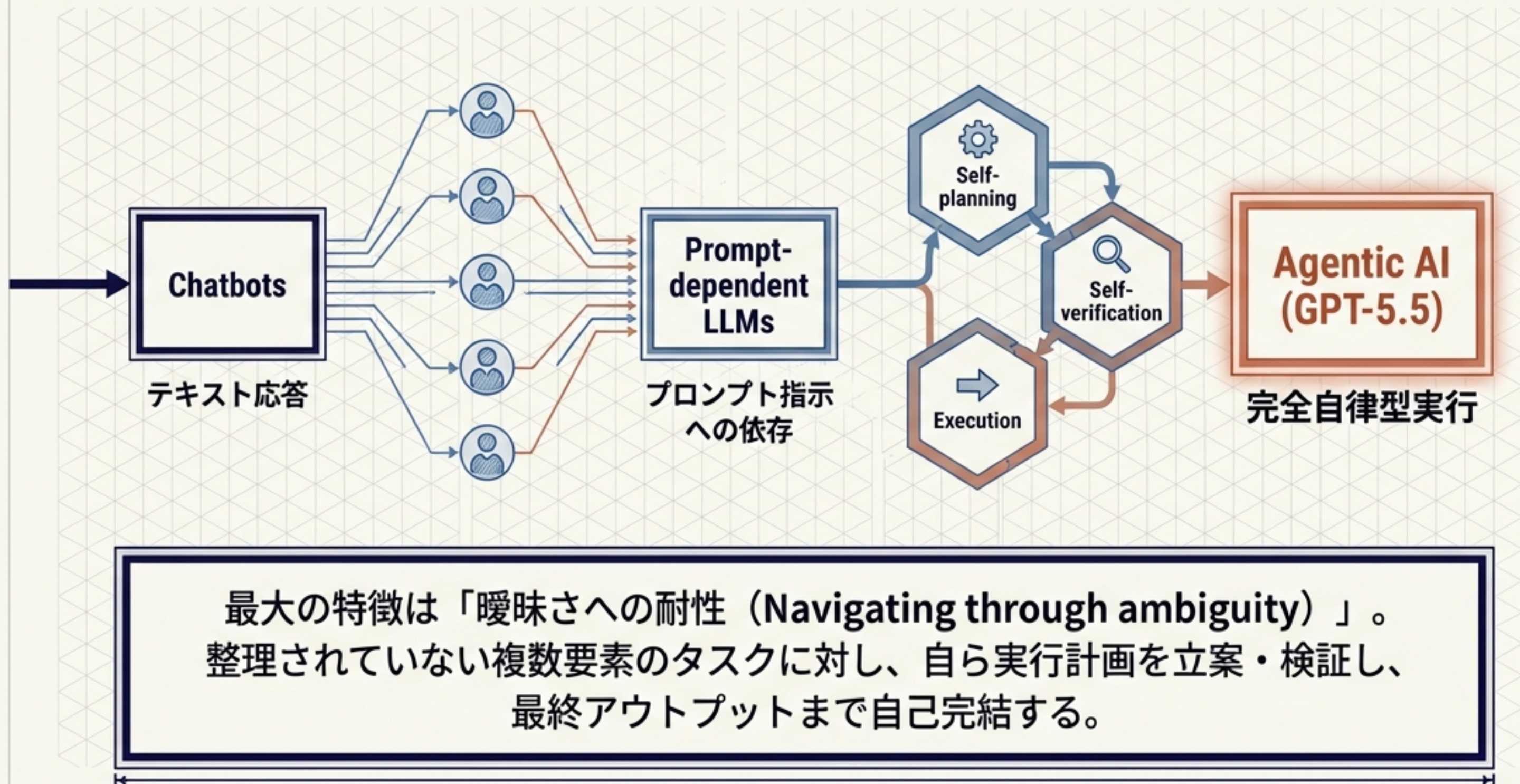


単なるテキスト応答から、自律型「エージェント型・コンピューティング」への飛躍



OpenAIの至上命題

2025年の純損失90億米ドルを背景に、エンタープライズ市場を支配する「AIスーパーアプリ」の中核として開発。

高度なセキュリティ

「Preparedness Framework」に準拠し、サイバー攻撃等の致命的リスクを制限。

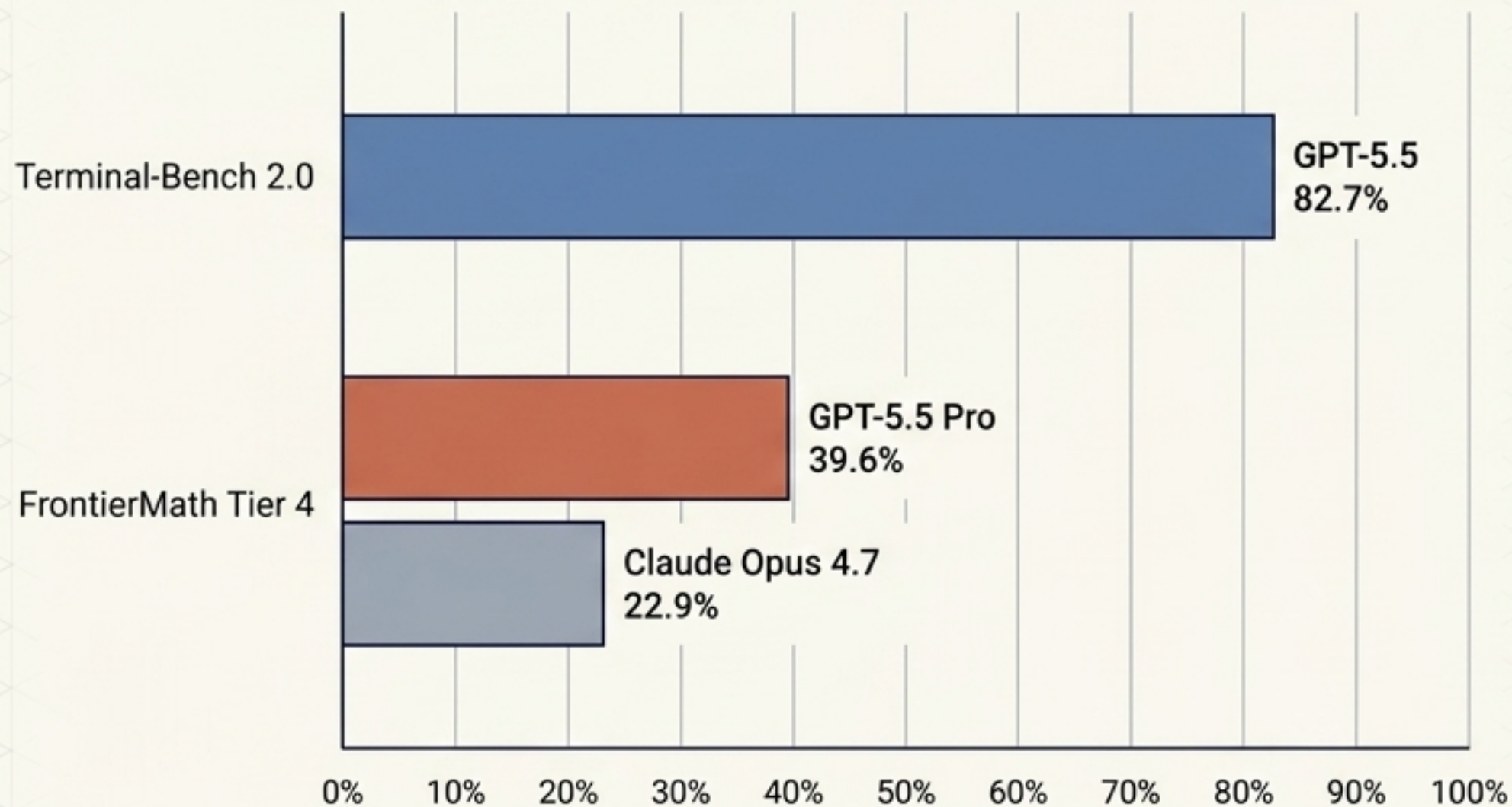
要求水準に応じた2つのアーキテクチャ展開

指標	GPT-5.5 (標準版)	GPT-5.5 Pro
想定ユースケース	日常的なPC作業、コーディング支援	法務、データサイエンス、複雑な論理推論
アーキテクチャ特性	GPT-5.4と同等の低遅延	深い自己回帰的思考、高正確性
1M入力トークン価格	\$5.00	\$30.00
1M出力トークン価格	\$30.00	\$180.00

Proモデルの6倍の価格差は、推論の正確性を担保するための多層的な検証プロセス（内部計算リソースの消費）に起因する。

競合モデルを圧倒する概念的明確さと自律的タスク達成力

主要ベンチマークスコア比較 (%)



Terminal-Bench 2.0はコマンドライン等を用いた自律的タスク達成率を示し、FrontierMath Tier 4はポストクレベルの極めて難解な数学問題の解決能力を示す。特にProモデルの推論能力の飛躍が顕著である。

82.7%

Terminal-Bench 2.0
コマンドラインを用いた複雑な自律的タスク達成率。Claude Opus 4.7等を凌駕

58.6%

SWE-Bench Pro
実世界のGitHub 이슈解決能力

78.7%

OSWorld-Verified
OSレベルでの正確なインターフェース操作

39.6%

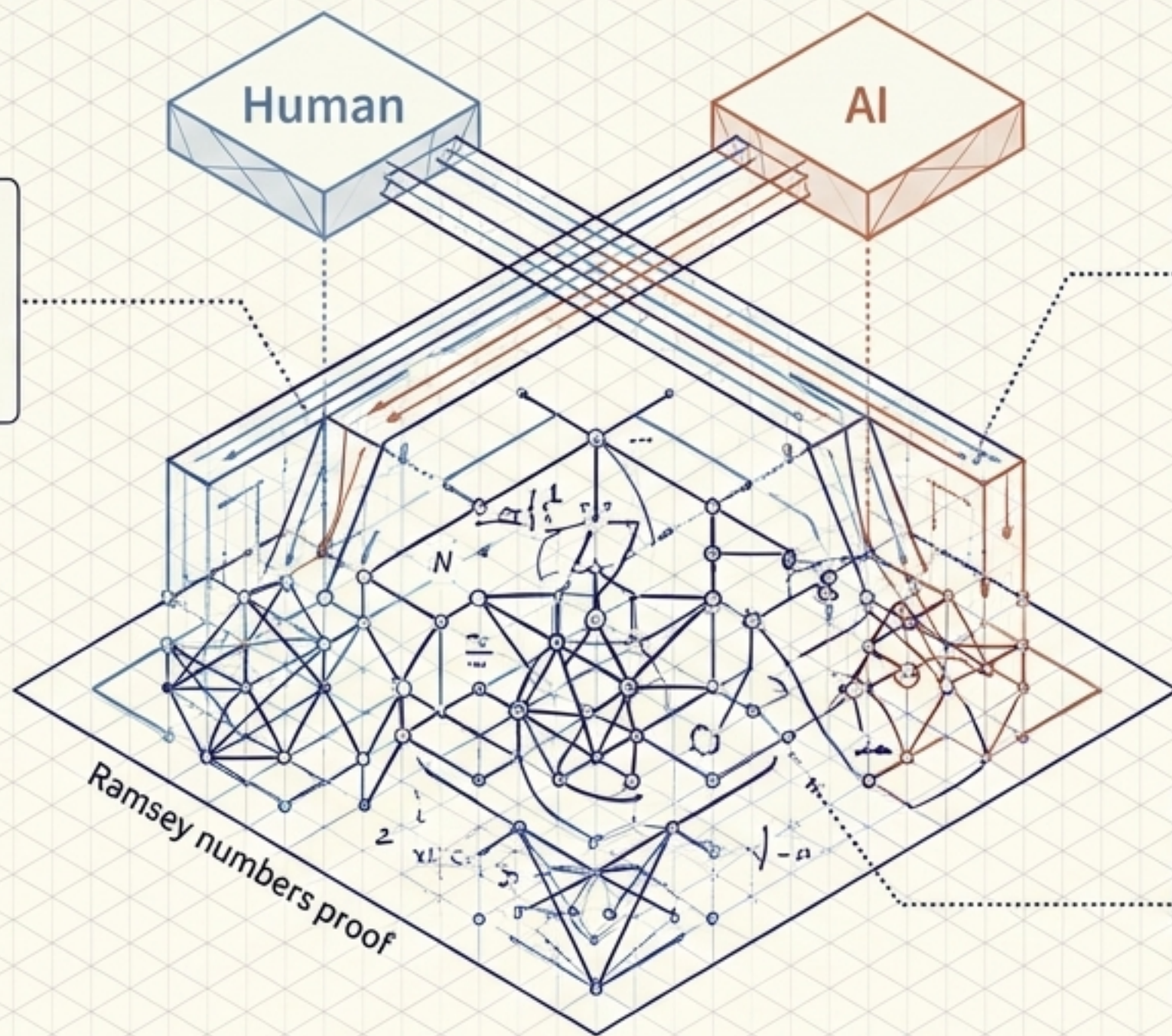
FrontierMath Tier 4
ポストクレベルの数学問題解決。Proモデル使用

サンドボックス内のテストではなく、長期的な文脈維持と自己デバッグを伴う「概念的明確さ (conceptual clarity)」を証明。

要約ツールから、未知の真理を探索する「共同研究者」への進化

事象: カスタマイズされたGPT-5.5が、組み合わせ数学における極めて難解な「ラムゼー数 (Ramsey numbers)」の新たな定理証明に直接貢献。

本質: 既存知識の検索・要約ではなく、専門家と共に未知の学術的真理を発見する次元へ到達。



証明への貢献: GPT-5.5は膨大な探索空間の絞り込みと反例生成のプロセスを高速化し、人間の数学者との対話を通じて新たな証明経路を特定。

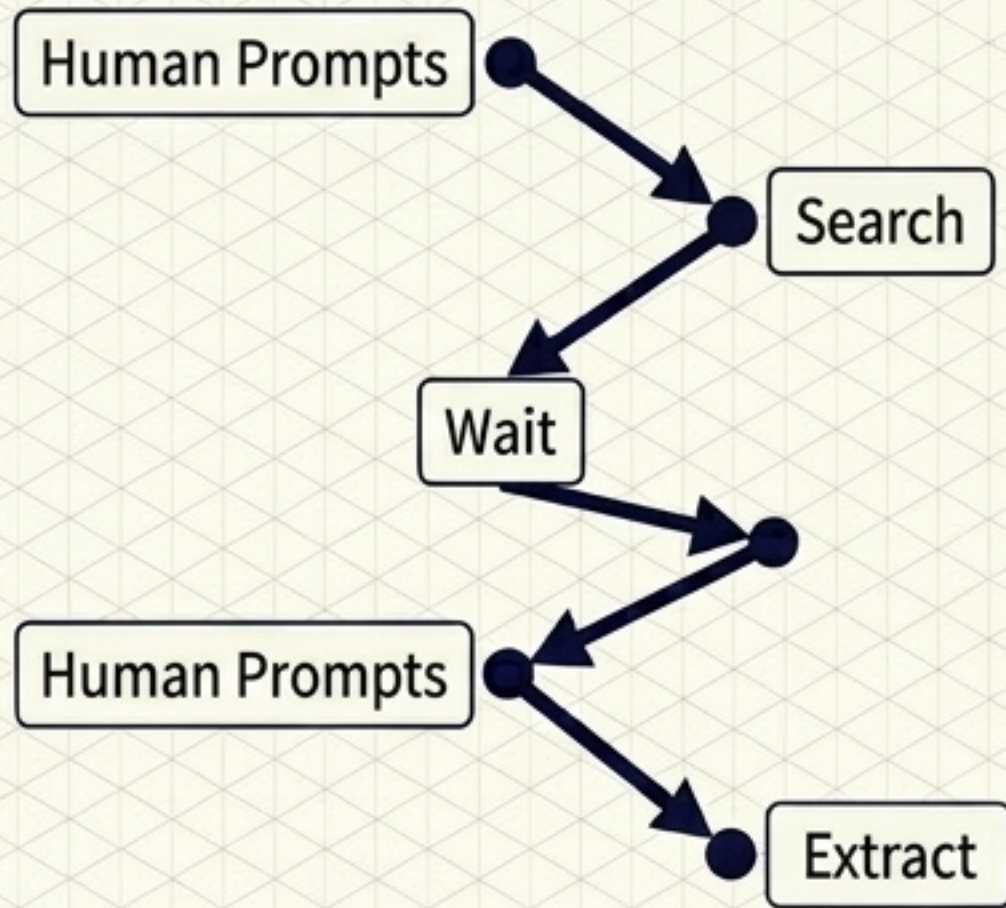
日本市場への波及

マルチモーダルモデル「GPT-Image 2」の統合により、日本語テキストや複雑な技術図面（ブロック図、機械構造図等）の高精度な視覚的解析と構造化が実現。

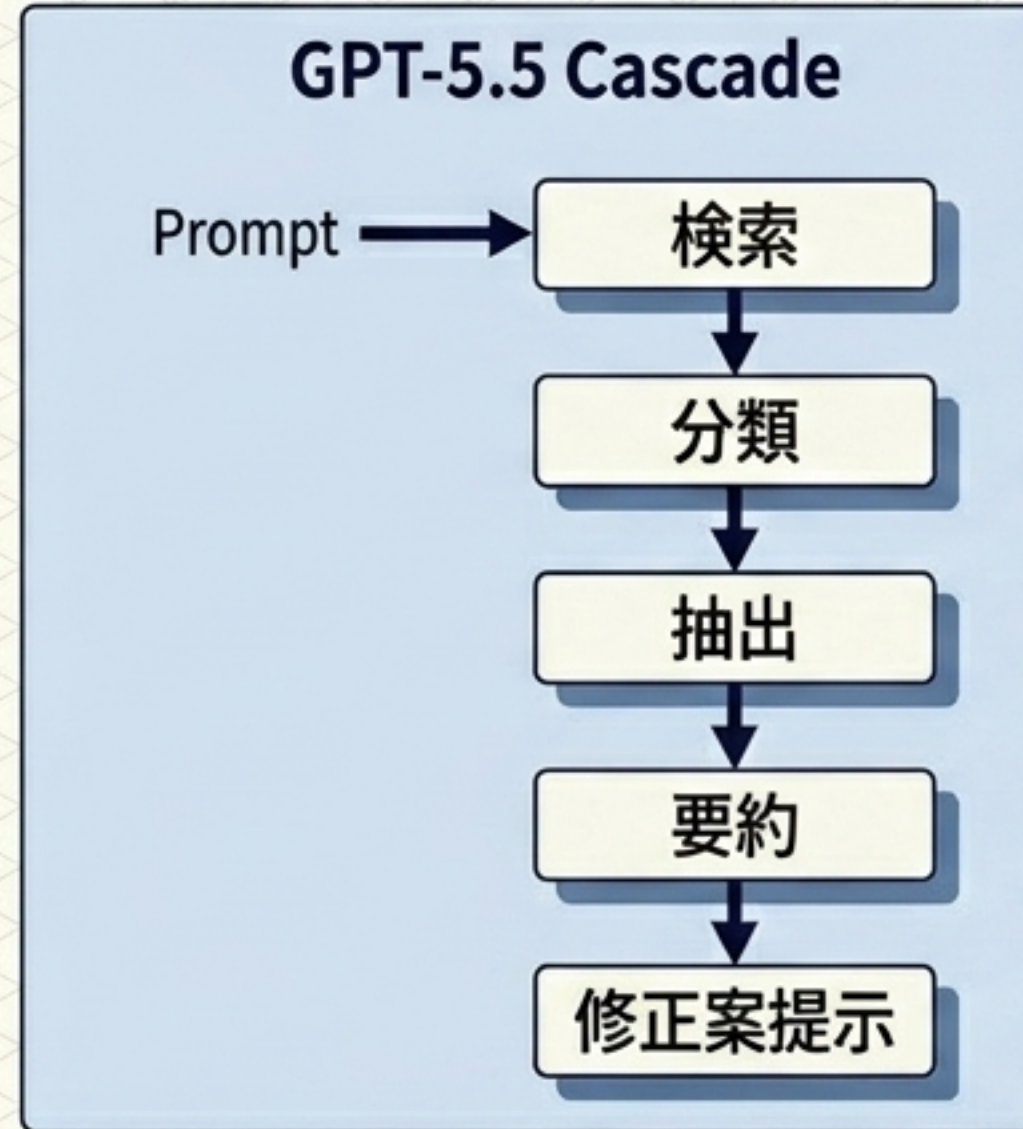
複数ステップを自己完結する「ツールチェーン」の最適化

The Tool-Chaining Cascade

Old Linear Method



GPT-5.5 Cascade



Harvey AI 評価データ

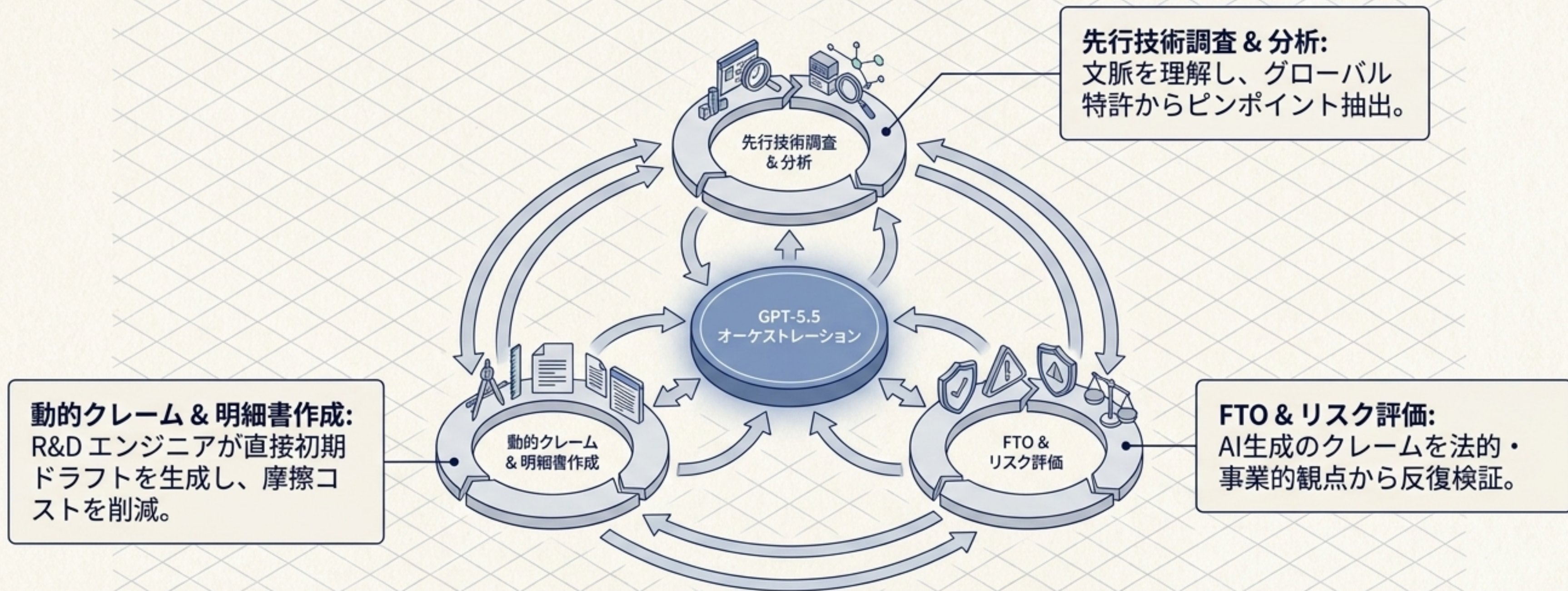
全体スコア: 91.7%
(法的な推論、構造化、
トーン調整で顕著な向上)

完全回答率:
タスクの43%で満点を獲得
(スコア0.5未満は皆無)

モデルク

API呼び出し回数を約45%削減。モデル自身が「次に必要なアクション」を高精度に予測し、推論のループと無駄なコストを極限まで圧縮。

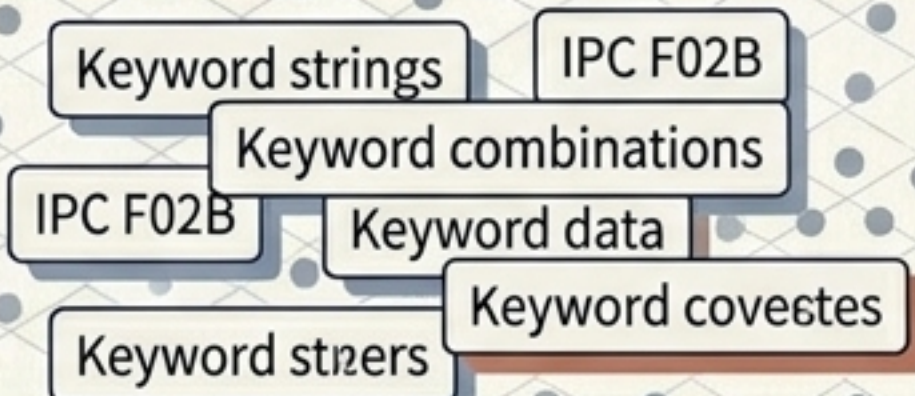
GPT-5.5が統合する次世代のエージェントック特許実務サイクル



専門家の役割は「テキスト化の代行」から、権利範囲の拡張と回避設計を担う「戦略的レイヤー」へと急激にシフトしている。

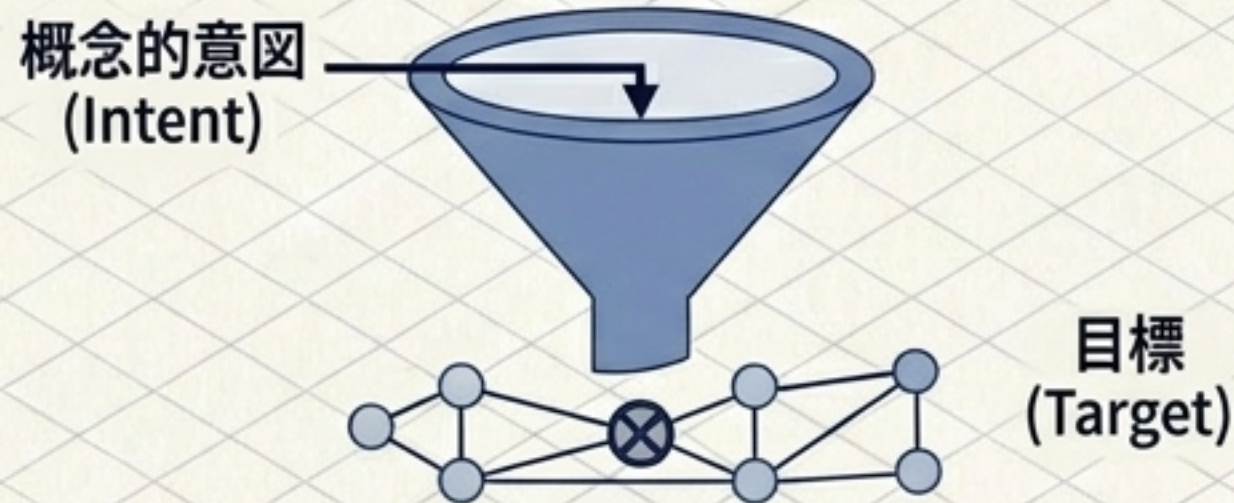
先行技術調査におけるパラダイムの衝突：概念的意図の捕捉

従来型 (キーワード/IPC依存)



検索精度が低く、ノイズが多い

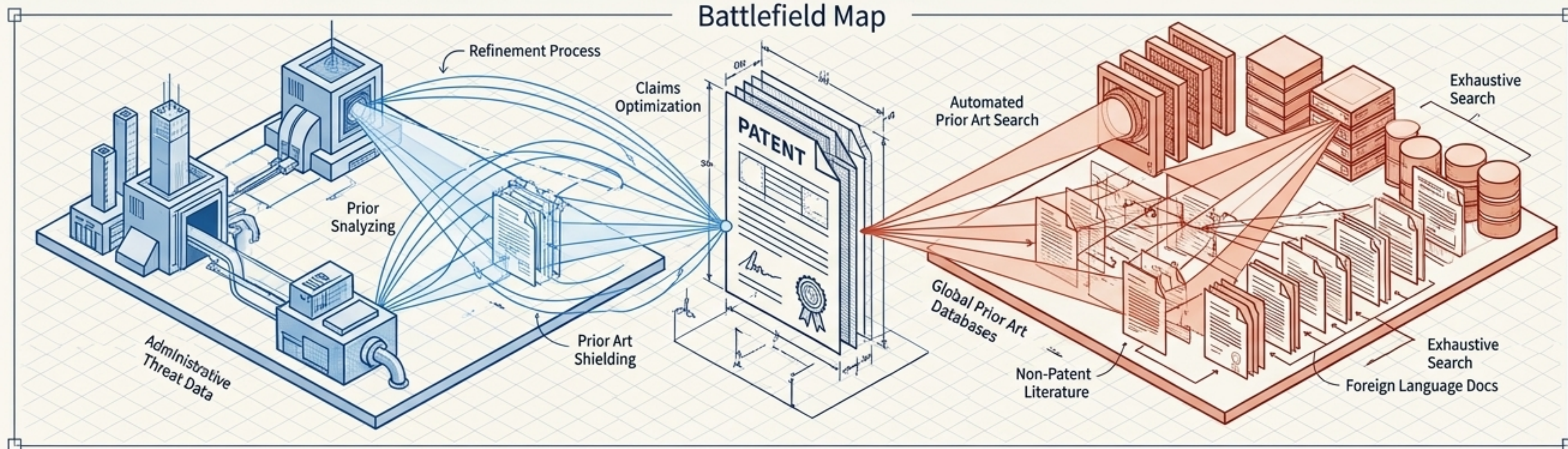
GPT-5.5 (セマンティック検索)



文脈と意図を正確に捕捉し、ピンポイント抽出

	従来型 (キーワード/IPC依存)	GPT-5.5 (セマンティック検索)
検索ロジック	用語の表面的な一致	技術的課題と解決手段の概念的な一致
複雑なクエリ処理 (例: 有毒物質を使用しない 無アルカリガラスの製法)	無関係な一般ガラスの製法 (ノイズ) を多数抽出	「有毒物質の代替手段としての清澄プロセス」 という技術的文脈を正確に捕捉
データ抽出範囲	テキストのみ	PDF/Word内の表データ (テーブル構造) の 読み解きと定量パラメータの自動比較

「AI vs AI」の構図：審査当局のAI実装と出願人の対抗措置



Administrative Threat Data

USPTO (米国) :

「Automated Search Pilot Program」(2025年10月~2026年4月)。審査前にAI生成による先行技術検索結果を出願人に提供。

JPO (日本) :

「AIアクション・プラン」が2026年マイルストーンに到達。先行技術調査の自動化、高度な機械翻訳による外国語文献探索が実用化。

STRATEGIC TAKEAWAY

審査官が強力なAIを用いて隠れた先行技術を網羅的に発見する時代。出願人側もGPT-5.5 Pro等を活用し、出願前に極限までクレームを精緻化しなければ拒絶リスクを回避できない。

AI発明者を巡るグローバルな司法コンセンサスの確立

米国連邦最高裁
(2026年3月)

Thaler v. Perlmutter
/ Vidal 事件。AIが
自律生成した作品
に著作権・特許発明
者性は認められない
と最終確定。

日本 東京地裁
(2023年)

令和5年（行ウ）第
5001号事件。AI
システム（DABUS
等）は日本の特許法
上、発明者になり
得ないと明示。

共通の法理

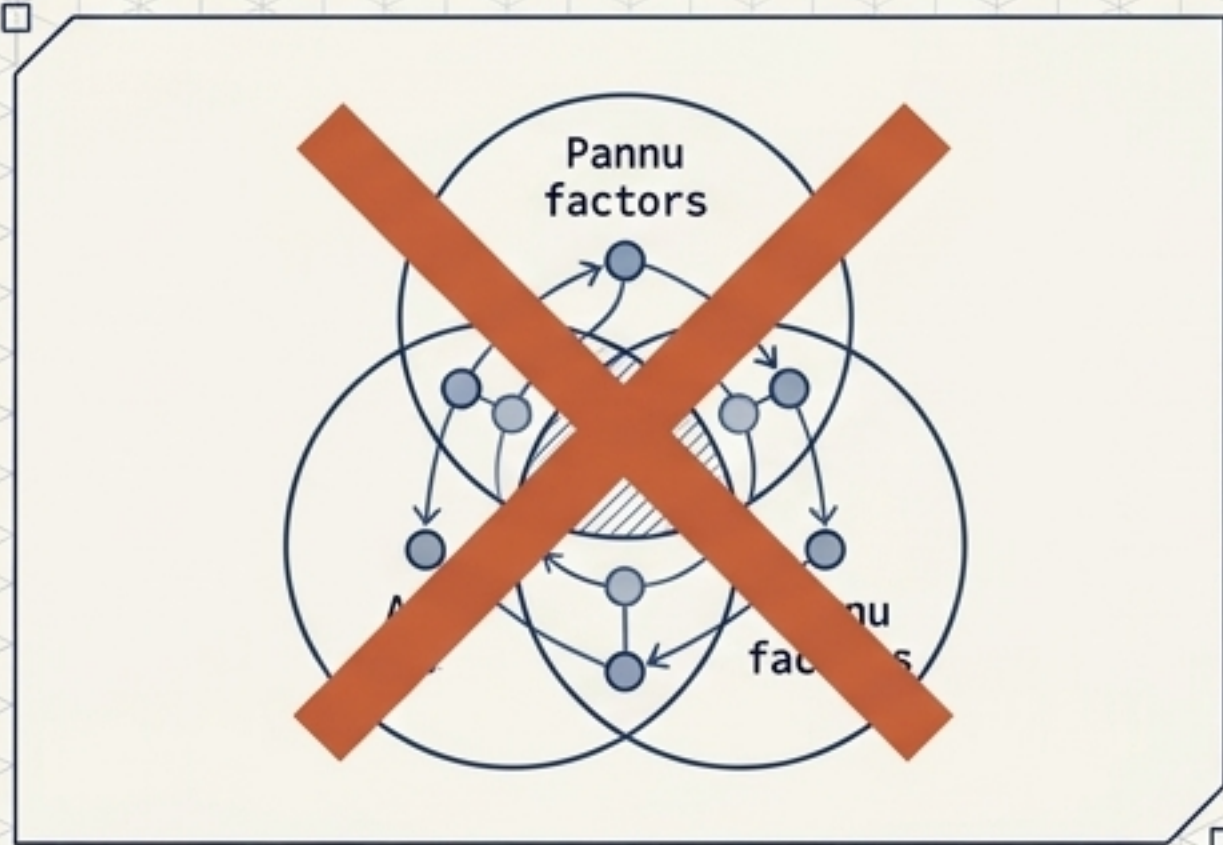
発明者性
(Inventorship) の
認定には「人間の
介入 (Human
Contribution)」が
絶対条件である。

Judicial Alignment

最終結論: AIは発明者にはなり得ない。

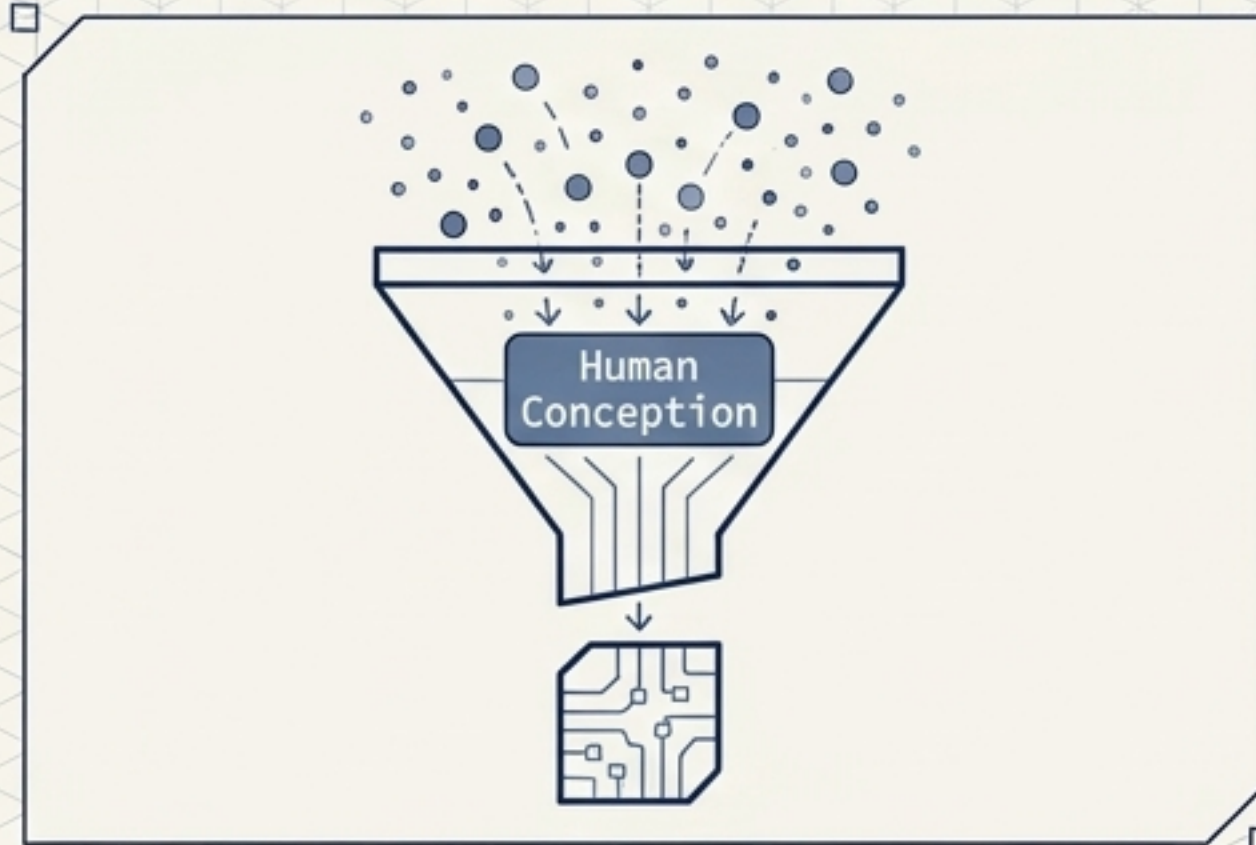
USPTOガイドランスの抜本的再定義（2024年 vs 2025年）

旧基準（2024年2月）



人間とAIの間で「Pannu factors（共同発明者の認定要件）」を適用。AIに擬似的な地位を認める混乱を招いた。

新基準（2025年11月改訂）



2024年版を完全撤回。AIは「高度なツール」に過ぎず、人間+AIにPannu基準を適用することは不適切と明言。

Real-World Impact

GPT-5.5を用いて技術構造のヒントを得たとしても、最終的な「着想（Conception）」を人間が提供していれば、単独の自然人が全権利を主張可能。OpenAI等に権利が帰属するリスクは排除された。

欧州AI法（EU AI Act）の全面適用とデプロイヤーへの重責

2025年2月

禁止されるAIプラクティスの適用開始。

2025年8月

汎用AIモデルに対する透明性要件の適用。

2026年8月2日

全面適用（Full Application）。
広範なガバナンス義務が発生。

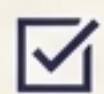
Impact on IP Departments



域外適用（Extraterritorial effect）：EU外の企業でも、出力がEU内で使用される場合は厳格な要件に従う義務。

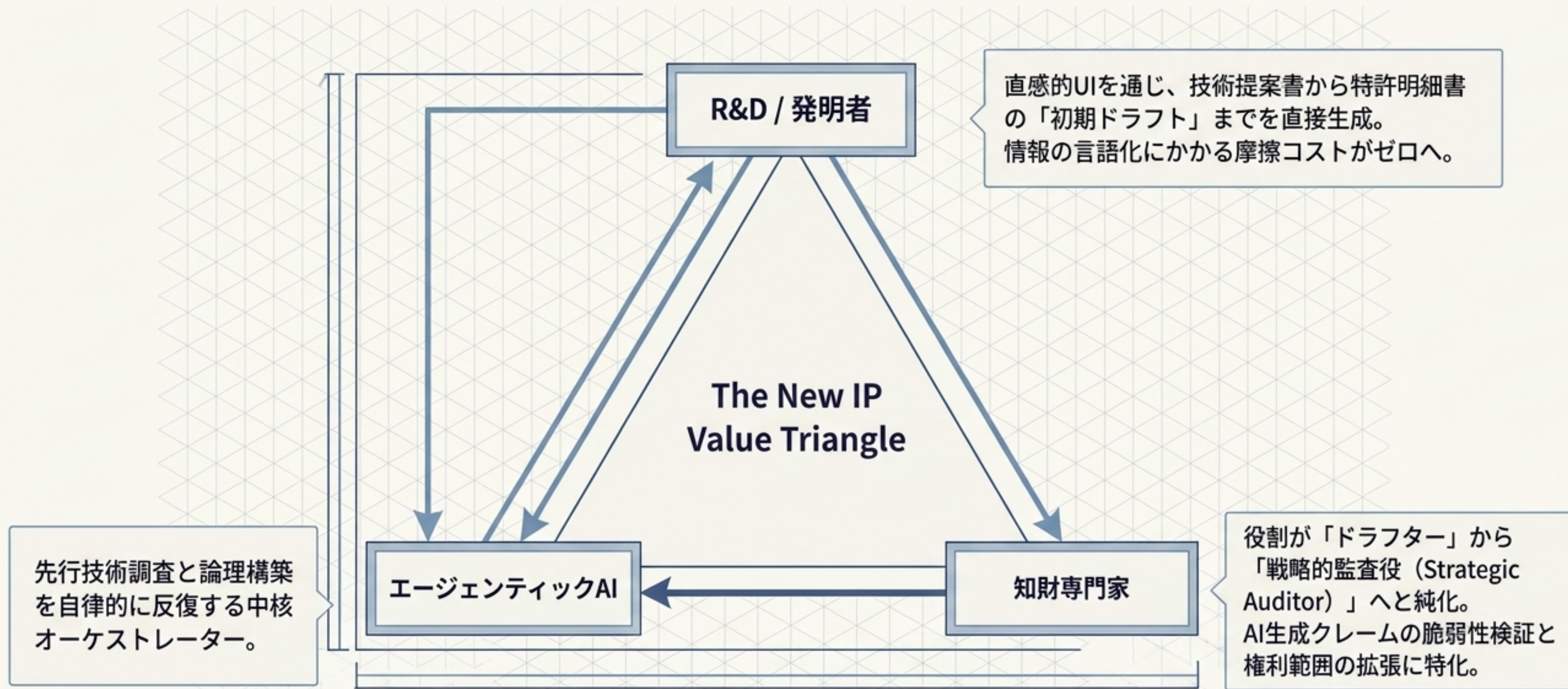


デプロイヤーの義務：AI開発企業だけでなく、導入企業（知財部門）に対しても執行・制裁金が適用されるリスク。

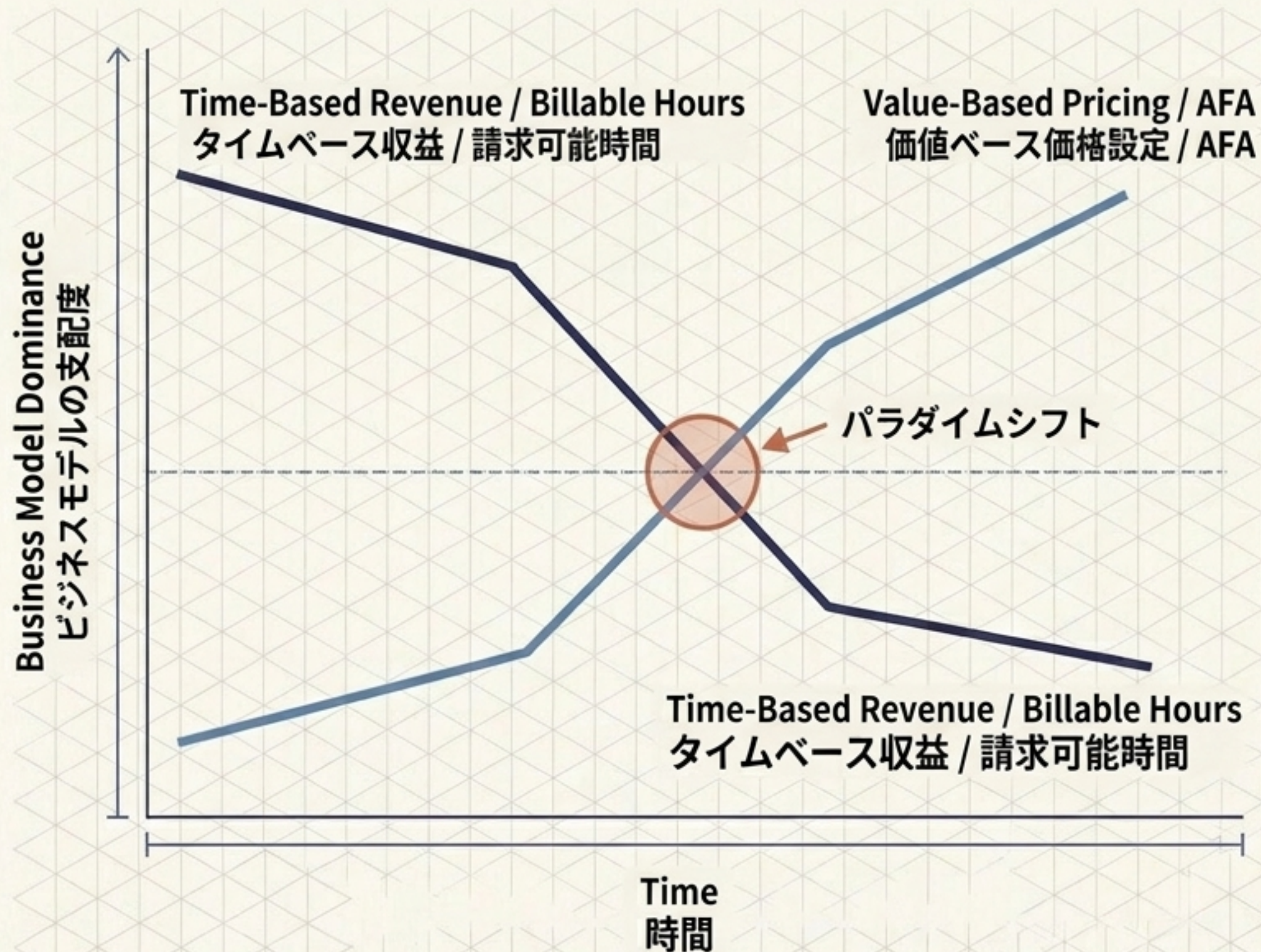


データ保護の実務：機密情報の学習利用を防ぐオプトアウトの徹底と、AIリテラシー教育・運用ログ保持体制の構築（第4条要件）が必須化。

SYNTHESIS：知財実務の新たなバリュー・トライアングル



タイムチャージ (Billable Hour) モデルの終焉と価値ベースへの移行



Market Reality



構造的矛盾

人間が数週間要した調査や明細書作成を、GPT-5.5はAPIコストベース（数百～数千円）かつ数分で完了させる。時間に基づく請求は顧客の期待と完全に乖離。



移行の必然性

処理に費やした「時間」ではなく、提供された「法的安定性」「権利化の確度」「事業リスクの回避」を基準とする代替的報酬体系 (Alternative Fee Arrangements: AFA) へのシフトが不可逆的なトレンドに。

最終的な付加価値：「人間の専門知（Domain Knowledge）」の純化

GPT-5.5の登場は、専門家の存在意義を奪うものではない。
むしろ、AIが代替できない高度な「判断」の領域へと実務家を押し上げる。

The Architect's Role

ハルシネーションの排除

AIの論理構造の脆弱性を批判的に
検証する。

The Architect's Role

特許適格性の補強

米国特許法第101条等の複雑な法
理に照らし、有効性を担保する。

The Architect's Role

「着想」の法廷証明

審査過程において人間の「着想
(Conception)」の介在を記録・
証明し、権利を勝ち取る。

AIは実行主体（Agent）であり、人間は権利と戦略の設計者（Architect）である。